



新市立病院の候補地は3ヶ所

～現在地、二ツ島、現・北高～

「市長と話してみませんか」で検討の方向が示される

1月19日、中郷多目的集会所で、市女性連盟主催による「市長と語りませんか」が、参加者約100人で開催されました。豊田稔市長からの市政報告の後、熱心に質疑がかわされました。

市長からは、きびしい財政事情のなか財政の立て直しをはかっていることや、市立病院の医師確保に奔走してきて、いよいよ病院建て替えの検討に入ることが報告されました。新市立病院の建設予定地としては、

- ①現在地、②前市長時に
- 出された二ツ島、③現在の北茨城高校敷地の3つの候補地が示されました。

道路網の整備では、現在の産業道路の小野矢指から以南の道路建設に着手、3年間で作ることを県に要望していると報告しました。教育適正化計画を示すこと、また農業振興では、飼料米作付けへの支援や果樹栽培、市民農園の拡大などの考えを述べました。質疑応答では、病院問



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

市議選 3/22投票

市議会議員選挙の日程が決まりました。3月15日に告示され、投票は22日です。定数は、現在より2名減の22名となります。日本共産党では、福田明、鈴木やす子両現職の擁立を決めています。



女性後援会

1月20日、日本共産党女性後援会の宣伝カーが市内をめぐり、総選挙と市議選での躍進を元気いっぱい訴えました。

題や磯原駅東口トイレの設置、図書館の時間延長、中郷幼稚園の閉園について、農業振興への支援や観光地での標識設置など多岐にわたる声が出されました。市長は、それぞれに率直に答え、市立幼稚園の廃園については「申し込み世帯の急激な減少があり、苦渋の選択で廃園を決定した」と述べる一方、「子育て支援の充実をはかっていきたい」と語りました。東口トイレ

本市のイメージ色、緑と青で過半数

市が実施したアンケートの結果から

市は第4次北茨城市総合計画(平成22～31年の10カ年)の策定にあたり、市民意識を把握し、計画に反映する

うえでの基礎資料とするために、昨年の2月に「市民アンケート」を実施。その結果が昨年10月にまとめられました。

住民基本台帳から無作為に抽出した18才以上の市民3700人を対象にしたア

ンケートで、1304人から回答が寄せられました。調査項目は「市の印象、暮らしやすさについて」「日常生活における意識等について」「市の土地利用について」「将来のイメージについて」「市民参加のまちづくりについて」の柱で40項目の設問があります。その主な結果を紹介すると「市を色でイメージすると何色か」

は「緑」が最も多く28%、次いで「青」が24%。

「市の自慢できるものは何か」は「海や山の自然が豊か」が51%と過半数を超えました。「市は住みよいまちと思うか」では「とても住みよい」10%、「まあまあ住みよい」48%、「やや住みにくい」14%、「とても住みにくい」4%となっています。

健康・医療・福祉の満足度では「病院等の医療施設や診療内容」に「不満」「やや不満」が合わせて73%で、これらの分野に今後特に力をいれてほしいが71%です。

「将来の市のイメージ」は「保健・医療・福祉が充実し、安心して暮らせるまち」が最も多く71%。次いで「健康づくりが盛んなまち」43%となっています。「市の合併について」は「わからない」が41%で最も多くなっています。「限られた財源の中で、今後どのような市政運営が必要か」では「行政と市民が協働で役割分担をし、行政コストをできるだけ抑さえ、サービス水準や負担は維持する」53%、「サービス水準を多少下げても、市民の負担は増やさない」が18%となっています。

日本共産党市議団は「今回のアンケートの結果をみても、多くの市民が『医療・福祉の充実した自然豊かなまち』を望んでいることがよくわかる。わが党は、これまで議会の中で市民のいのちと暮らし最優先の政治を求めてきたが、今後ともその実現のために全力をつくす」としています。